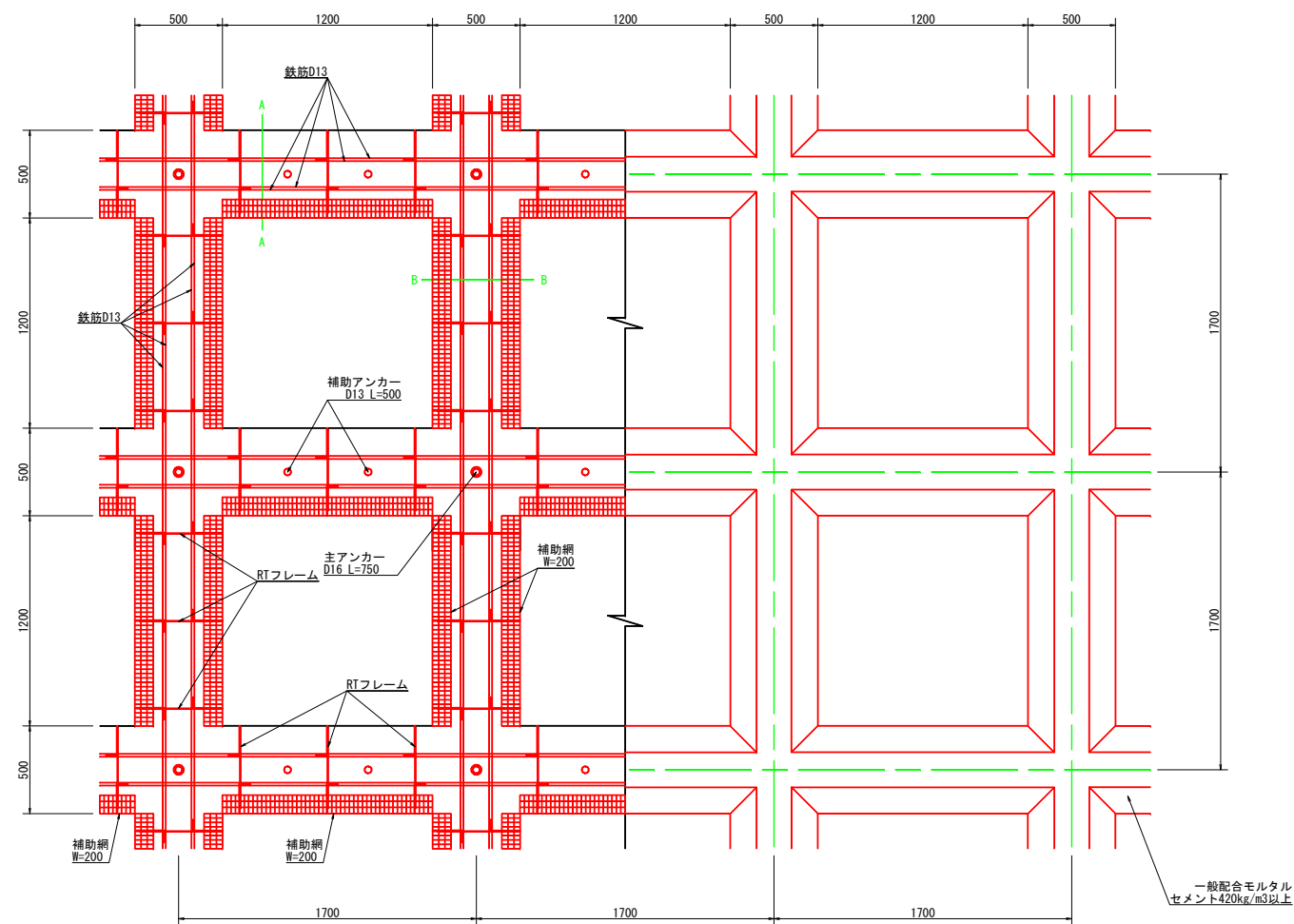
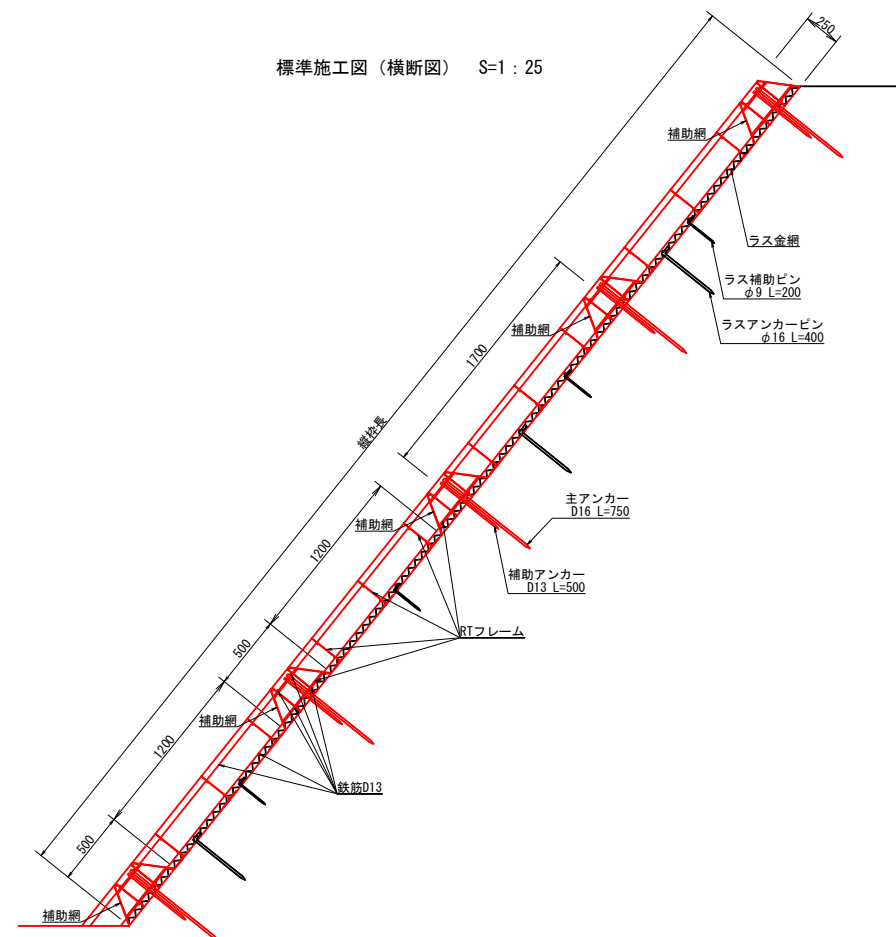


# 構造図 RTIV型 1700×1700

標準施工図 (正面図) S=1:20



標準施工図 (横断面図) S=1:25



## 標準数量 (積算標準数量)

高さ20.90m×長さ49.80m=1040.82m<sup>2</sup>の法面として数量算出  
 横枠数 = (20.90m-0.50m)/1スパン1.7m=12スパン \*13段  
 縦枠数 = (49.80m-0.50m)/1スパン1.7m=29スパン \*30列

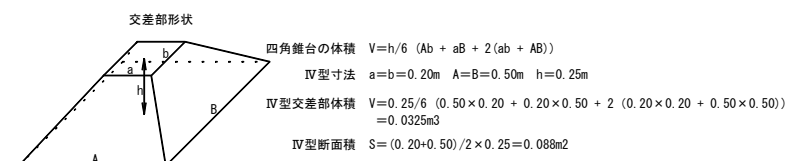
項目	材料	数量	数量計算
法枠長		1079.40m	(20.90m×30列+49.80m×13段)-30列×13段×0.50m=1079.40m
鉄筋加工組立工	鉄筋 D13 SD345	5072.11kg	(20.90m×30列+49.80m×13段)×4本×0.995kg/m=5072.11kg
RTフレーム設置工	RTフレーム IV型 W=200-500 h=250	2211個	縦枠 3個/スパン×12スパン×30列=1080個 横枠 3個/スパン×29スパン×13段=1131個
主アンカー設置工	先付けアンカー D16 L=750	390本	30列×13段=390本
補助アンカー設置工	先付けアンカー D13 L=500	754本	2本/スパン×29スパン×13段=754本
補助網設置工	吹付待用金網 200×1200	1097枚	縦枠 2枚/スパン×12スパン×30列=720枚 横枠 1枚/スパン×29スパン×13段=377枚
枠内清掃工		348箇所	12スパン×29スパン=348箇所
法枠吹付工	一般配合モルタル	99.47m <sup>3</sup>	断面積=0.088m <sup>2</sup> 交差部体積=0.0325m <sup>3</sup> (20.90m×30列+49.80m×13段)×0.088m <sup>2</sup> -30列×13段×0.0325m <sup>3</sup> =99.47m <sup>3</sup>
枠内面積		501.12m <sup>2</sup>	1040.82m <sup>2</sup> -1079.40m×0.50m=501.12m <sup>2</sup>

\*損失ロスを含まない数量。  
鉄筋使用量には1%加算が必要。

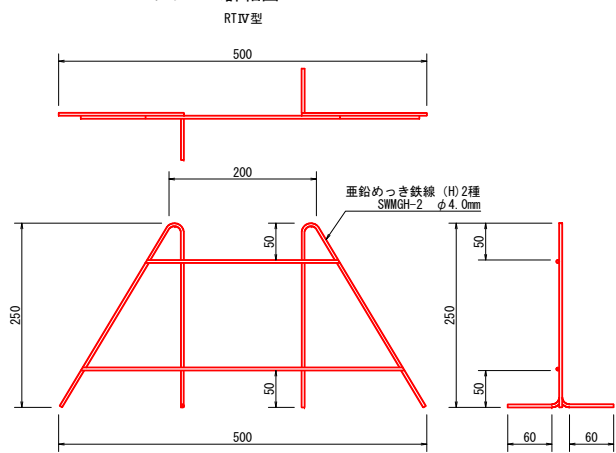
\*損失ロスを含まない数量。  
吹付使用量には3%加算が必要。

## 注意事項

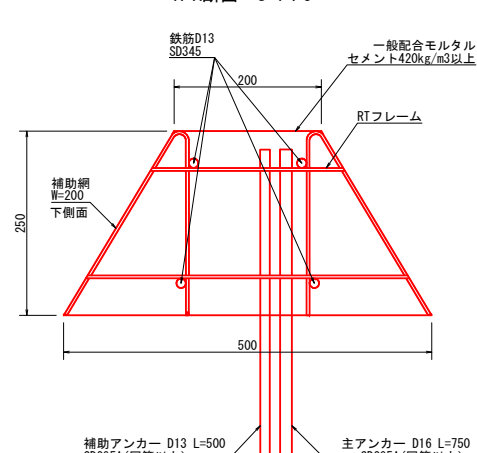
- \*本表記載の数量は、法枠長1.0m当りの工事準備を求めた積算標準数量であり、基準スパンに基づいて求めた数量である。実施スパンは法面形状に応じて調整を行うので実施数量も変動するが、単価積算での数量変更は行わないものとする。
- \*モルタルの設計基準強度は18N/mm<sup>2</sup>に設定している。(標準配合:セメント420kg/m<sup>3</sup>、1:4モルタル)
- \*モルタルに混和剤・添加剤は含んでいないので、必要に応じて計上するものとする。
- \*鉄筋はD13×SD345を標準とし、重ね長さは455mm以上とする。(計算書による。)
- \*下側の鉄筋設置位置は、外側・内側のどちらでもよい。(断面図参照)
- \*各アンカーは、吹付中に鉄筋がズレないように状態に設置し、鉄筋を固定する。
- \*横枠の下側面と、縦枠の両側面へ補助網(吹付待用金網相当)を設置し、モルタルのダレを防止する。設計網幅は必要最低限の200mmとしているので、200mmより広いものを使用してもよい。
- \*吹付の仕上げは自然状態とし、小手による整形は行わないものとする。但し、ロックボルト併用の場合の角座金設置面は、平坦な仕上げとする。



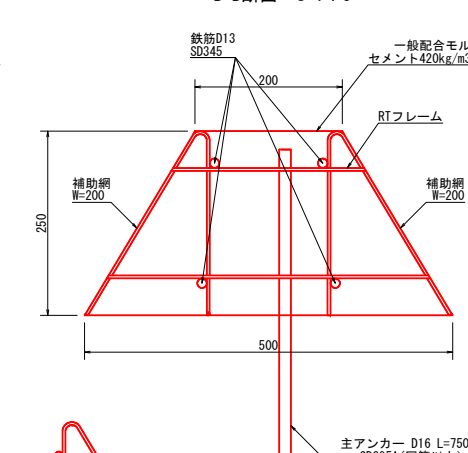
RTフレーム詳細図 S=1:5



A-A断面 S=1:5



B-B断面 S=1:5



下側鉄筋の設置位置は、外側・内側のどちらでもよい。(強度計算には影響しない)